

令和4年度図書館事業実績評価

守谷中央図書館

令和5年10月

☐ 評価について

令和３年度実績に対し、令和４年度の図書館事業における実績評価を実施し、検証しました。

評価内容は、運営基本方針の実現に向けた活動計画の５項目における自己評価及び総括としました。

☐ 運営基本方針の実現に向けた活動計画

- 1 資料、情報提供の充実
- 2 子どもの読書活動の推進
- 3 市民協働によるサービスの充実
- 4 多様なニーズに応えるサービスの提供
- 5 信頼できる図書館運営

総 括

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染対策を継続しつつ、図書館サービスの充実に努めてまいりました。中央図書館の開館は、当初の予定どおり343日(令和3年度295日)となりました。新規登録者数、来館者数は前年度のおよそ120%に向上しましたが、貸出点数、貸出利用者数は僅かな伸びに留まりました。前年度までは、多くの人々が外出を自粛し、家での時間を楽しむ傾向がありましたが、今年度は図書館においても、閲覧席を利用する利用者が増加し、滞在型の利用が戻って来たことが伺えました。また、これまで自粛していたイベントの開催において、秋からはコロナ禍以前に近い形に戻し、イベント等を通して、多くの方に図書館を利用していただく機会を作ることができました。

資料情報提供の充実については、兼ねてから利用者から希望があった、雑誌の貸出冊数の制限撤廃に向けた検討を行い、3月末に規則改正を行いました(令和5年4月1日から制限撤廃実施)。また、デジタルアーカイブにおいて、生涯学習課と連携し、『守谷市遺跡情報システム』の開設、また、『守谷市文化財マップ』『守谷の平将門伝説』の公開及び『守谷のふるさとかるた』の拡充を図りました。

学校図書館との連携業務においては、小・中学校へのブックパックの貸出及び団体貸出を始め、ブックトークの実施、学校司書による学習支援等に積極的に取り組みました。また、新たに中学生の読書意欲を高める取組の一つとして、教育指導課と連携し「MORIYA中学生ビブリオバトル!2022」を開催しました。当日は、中学校4校から選出された7名による熱いバトルが繰り広げられ、充実した大会となりました。

子どもの読書推進においては、「第四次守谷市子ども読書活動推進計画」に基づき、おはなしボランティアの活動支援に注力しました。ボランティアのスキルアップの一助として、パネルシアターや絵本の読み聞かせを研修するおはなしボランティア育成講座を開催しました。また、新たなボランティアを育成するため、おはなしボランティア養成講座を開催し、新たなおはなしボランティアグループが誕生しました。

今後も、図書館ボランティアを始め、関係各所との更なる連携に努め、図書館サービスの向上に努めてまいります。

1 市民の求める図書や情報の収集, 提供, 保存

評価基準	R3年度実績	R4年度実績	前年比
図書資料数	425,559冊	426,570冊	↗
視聴覚資料数	18,280点	18,452点	↗
雑誌タイトル数	327タイトル	330タイトル	↗
新聞タイトル数	31紙	31紙	→
蔵書冊数（市民一人当たり）	6.1冊	6.1冊	→
資料回転率（図書）	2.1回	2.1回	→
地域・行政資料の受入冊数	213冊	170冊	↘
寄贈資料受入冊数	642冊	839冊	↗
地域資料等のデジタル化（ADEAC作成件数）	3件	3件	→
宅配サービス等登録者数	3人	3人	→
宅配サービス等貸出点数	278点	320点	↗
外国語資料の受入冊数	83冊	71冊	↘
レファレンス受付件数	6,637回	7,673回	↗
県立図書館, 県内公共図書館との相互貸借数	2,542冊	2,505冊	↗
国立国会図書館, 他県立図書館等との相互貸借数	262冊	269冊	↗

自己評価

・資料の購入と除籍を適切に実施し、図書館及び公民館図書室の蔵書構成を整備することに努めました。中でも、令和5年度秋から改修工事を予定している郷州公民館の資料については除籍に注力し、リニューアル後を見据えた蔵書管理に努めました。結果として、昨年度の資料数とほぼ同数となり、市民一人当たり蔵書冊数と資料回転率については昨年同様の数値となりました。

・地域・行政資料の受入冊数が減少しましたが、寄贈資料の受入冊数が増加しました。

・ADEAC（デジタルアーカイブ）は、「守谷市遺跡情報システム」「守谷市文化財マップ」「守谷の平将門伝説」を新たに公開しました。また、「守谷のふるさとかるた」において、かるたの読みと解説の音声を収録し、見るだけでなく聞いて楽しむことができるタイトルになりました。

・レファレンス受付件数は、開館日数の増加に比例した結果となりました。

・相互貸借は、県内、県外公共図書館ともに活発に行いました。

・全体として、開館日数に比例し前年度の数値を上回った項目が多数ありましたが、伸び幅が必ずしも大きいとは言えず、長いコロナ禍により利用に変化が生じていることが予想されます。多様化する利用者ニーズに対応するため、利用動向を注視していきます。

2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援

評価基準	R3年度実績	R4年度実績	前年比
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	0回	0回	→
子ども向け行事開催数	15回	15回	→
子ども向けの資料案内の作成数	11件	11件	→
図書館職員（スタッフ）によるおはなし会の実施回数	5回	6回	↗
ボランティアによるおはなし会の実施回数	56回	152回	↗
学校への団体貸出冊数	5,884冊	5,838冊	↘
学校図書館（相互利用）への貸出冊数	103冊	143冊	↗
ブックトークの実施数	24回	24回	→

自己評価

【子どもの読書活動の推進】

- ・講演会の準備は講師の選定等において半年以上前から着手しますが、その時点で感染状況を見極めることが難しかったことから開催を見送りました。
- ・昨年度まで夏休みの子どもの向け行事の開催を自粛していましたが、今年度は「ポップアップカードをつくろう」「植物化石を発掘しよう」「英語のおはなし会(国際交流員による)」「読書感想文書き方教室」「図書館ナイトツアー」を開催し、小さな子どもから学童まで幅広い年齢層の参加がありました。中でも、図書館ナイトツアーは人気が高く51人の応募がありました。
- ・昨年度に引続き、市民活動支援センターと共催で、「わんちゃんと一緒に読書」を開催しました。また、守谷市教育委員会教育指導課と連携し、守谷市に勤務するALTによる英語のおはなし会を開催しました。図書館利用が日常的ではない子どもたちにも参加しやすい行事であり、今年度も高評でした。
- ・おはなし会については、参加者の人数制限を行いました。開催回数はコロナ禍以前の数値に戻りました。

【中央図書館との連携による学校図書館の充実】

- ・小・中学校へのブックパックは予定どおり全校に貸出を実施しました。
- ・学校への団体貸出数は、前年度を下回りましたが、ブックトークは前年度同様24回実施しました。
- ・学校図書館（相互利用）への貸出冊数は、前年度の139%になりました。学校図書館と中央図書館の連携により、学校司書が、児童生徒からのリクエスト資料を購入すべきか判断に迷った際には、統括学校司書や学校図書館担当職員へ相談することが日常的なこととなりました。購入ではなく、図書館資料の相互利用により対応するという判断がなされた資料が前年度を上回ったものです。

3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備

評価基準	R3年度実績	R4年度実績	前年比
図書館ボランティア登録数	19団体	19団体	→
ボランティアとの協働事業実施回数	7回	11回	↗
おはなしボランティア養成講座及び研修等の実施回数	0回	4回	↗
図書館ボランティア連絡会開催回数	0回	3回	↗
一般向け講演会、講座等の実施回数	1回	5回	↗
展示会の開催回数	9回	9回	→

自己評価

・登録ボランティア数に変更はありませんでしたが、「ボランティアマッチング見学会(図書修理の部及びおはなしの部)を開催し、4名の新たな図書修理ボランティアを獲得しました。

・ボランティアとの協働事業も積極的に実施し、コロナ禍以前の数値に近づきました。新規事業として老いも若きも読書会による読書会を開催しました。

・現ボランティアの育成と、新たなボランティアの獲得を目的として、「絵本の読み聞かせ講座(県立図書館と共催)」「パネルシアター講座」「おはなしボランティア育成講座」「おはなしボランティア養成講座」を開催しました。「おはなしボランティア」養成講座は、和久田み晴氏を講師にお迎えし、おはなしボランティアを目指したい方々に、語りの基礎等をご指導いただきました。柔らかな語りと丁寧な指導が大変好評でした。

・ボランティア連絡会は通常2回の開催ですが、3回の開催となりました。保健センターの改修工事により、長い期間図書館等別の場所で実施していたため、保健センターでの実施に戻すに当たり、事前の説明を実施しました。

・講演会・講座等については、「親子で学ぶマネーとゼイの講座」「新進作家芥川龍之介の登場と文壇－師夏目漱石の温かな視線の中で－」「ADEAC体験会」等を開催しました。

・展示会においては、ボランティア、市民等との協働により、市内で活躍するサークルのフォトクラブ写遊、守谷平和の会による展示、守谷ひなまつり実行委員会による「第11回守谷ひなまつり」を実施しました。また、市制施行20周年記念行事の一貫として、「図書館資料から見る守谷の歴史」展を開催しました。日頃、手に取っていただく機会の少ない郷土資料も展示し、守谷の歴史を知っていただく機会となりました。

4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供

評価基準	R3年度実績	R4年度実績	前年比
開館日数	295日	343日	↗
新規登録者数	1,319人	1,683人	↗
来館者数	201,155人	248,982人	↗
貸出点数（全館 個人）	964,363点	964,984点	↗
貸出利用者数	223,358人	227,937人	↗
市民一人当たり貸出数（全資料） ※1	13.8点	13.7点	↘
市民一人当たり貸出数（図書） ※1	12.8冊	12.7冊	↘
予約・リクエスト受付件数	278,661件	239,989件	↘
団体貸出数（学校以外）	※2 4,329冊→ 4,948冊	5,365冊	↗
インターネット端末利用回数	303回	231回	↘
電子図書館閲覧数(図書)	6,563件	5,694件	↘
ナクソス・ミュージックライブラリー ログイン回数	2,221回	2,134回	↘
育児コンシェルジュ利用数（利用項目合計）	1,130回	1,113回	↘
読書応援タイム（託児サービス）利用数	178人	300人	↗
書籍消毒機利用回数（全館合計）	32,249回	31,214回	↘

※1 市民一人当たり貸出数について、全資料と図書に区分しました。

※2 保育所・園等へ貸出したブックパックの冊数のカウントもれがあったため修正しました

※3 電子図書館閲覧数から電子図書館閲覧数(図書)に変更しました

自己評価

・年度当初の予定どおり343日開館することができました。新規登録者数は前年度より増加し、コロナ禍以前の令和元年度実績とほぼ同等の数値となりました。しかしながら、来館者数、貸出点数（全館 個人）、貸出利用者数においては、前年度を上回りましたが、コロナ禍以前の数値には届いていません。

・予約・リクエスト受付件数は大幅に減少しましたが、コロナ禍以前の数値より増加しています。令和3年度の高値は、休館中に図書館及びすべての公民館図書室において、予約資料の受渡しを実施したことによるもので、通常は棚から資料を選んで借りる方が、予約により貸出されたと判断します。

・電子図書館(図書)の閲覧数が減少しました。図書のコンテンツ購入費の一部を電子雑誌に充てたことにより、図書のコンテンツ提供数が下がったことが起因していると判断します。

・休館がなかったことにより読書応援タイムの利用数が、コロナ禍以前の数値に近づきました。感染対策の継続とサービスの周知に努め、更なる増加を目指します。

5 快適で信頼できるサービスの提供

評価基準	R3年度実績	R4年度実績	前年比
常勤職員に占める有資格者数（司書）	83.3%	88.2%	↗
司書資格新規取得者数	1人	0人	↘
研修への参加回数	15回	15回	→
研修の受講者数	23人	19人	↘
図書館協議会開催数	3回	4回	↗

自己評価

- ・司書資格新規取得者はありませんでしたが、常勤職員全体に占める有資格者数（司書）が前年度を上回りました。これは、会計年度任用職員における常勤職員が、1名減員したことに伴うものです。
- ・オンラインによる研修会開催が継続したことにより、昨年に引続き積極的な参加に努めました。
- ・図書館協議会は、対面で3回の会議及び北茨城市立図書館への視察研修を実施しました。ICタグの導入やカフェを併設した新しい図書館サービスの提供事例とともに、ボランティアとの協働による運営の成果について研修しました。
- ・令和7年度から実施予定である施設の大規模改修のため、令和4年10月24日（月）～11月27日（日）の期間、「守谷中央図書館 大規模改修に伴うアンケート」を実施しました。いただいたご意見を参考に、施設・設備の老朽化に伴う改修とともに、時代に即した快適な利用空間を提供できるよう、大規模改修工事に取組めます。